

○米価下落により米の収益性が大幅に低下している。また、ブランド米の産地間競争が一層激化してきている。

○岩手県のオリジナル水稲新品種「銀河のしずく」、「金色の風」が育成され、速やかな普及拡大により県産米の評価向上、農家の所得向上が求められている。

○このため、関係機関・団体等と連携し、新品種モデル圃の設置や研修会の開催を通じて、良食味・高品質米栽培技術の確立や、新品種PRに取り組む。

## 具体的な成果

### 1. 県オリジナル水稲新品種の早期普及拡大

■県農業研究センターが開発した水稲新品種及び有望系統の早期普及拡大を目指す。

- ・銀河のしずく(中生)：H28～ 一般栽培開始  
目標年度(H30)作付面積 2,000ha
- ・金色の風(晩生)：H29～ 一般栽培開始  
目標年度(H30)作付面積 600ha

### 2. 良食味・高品質米栽培技術の確立・定着

■安定栽培適地を明らかにし、良食味・高品質米栽培技術を確立する。

- ・品質の向上(一等米比率)  
現状：あきたこまち 94.5 %  
→H30：新品種 95 %
- ・食味評価の向上  
「特A」評価の取得  
※H27・28参考  
：「特A」評価



銀河のしずく

あきたこまち

### 3. 新品種のPR等による知名度の向上

■生産者や消費者へ新品種の良さをPRし、生産意欲・購買意欲を醸成する。

- ・新品種が新たなブランド米として定着

## 普及指導員の活動

### (1) 安定栽培適地の把握と作付誘導(H27～30)

#### ■銀河のしずく

- ・モデル展示圃設置(H27～29)
- ・生育調査に基づく「栽培マニュアル」作成(H27)、改訂(H28)
- ・栽培マニュアルに基づく指導及び検証(H28～30)



#### ■金色の風

- ・モデル展示圃設置(H27～29)
- ・生育調査に基づく「栽培マニュアル」作成(H28)

### (2) 研究会活動を通じた安定栽培技術の向上(H27～H29)

#### ■銀河のしずく

- ・栽培研究会設置(H27～29)
- ・地域栽培研究会設置(H28～29)



#### ■金色の風

- ・栽培研究会(県・地域)設置(H29)

### (3) 新品種PRによる知名度向上(H28～30)

- 生産者・消費者向けPR支援(H28～30)
- ・本庁県産米戦略室と連携したPR活動等

## 普及指導員だからできたこと

■中央農業改良普及センター・地域普及グループ(農業革新支援センター)が栽培農家、試験研究機関、関係機関・団体との連携をコーディネートして、栽培技術の早期確立・定着を図る。

■中央農業改良普及センター・地域普及グループ(農業革新支援センター)が消費者へのPR活動等を支援し、生産から販売促進まで一体的な普及活動により、新品種の早期普及拡大を図る。

## オリジナル水稲新品種の普及拡大

活動期間：平成27～30年度

### 1. 取組の背景

米価下落により米の収益性が大幅に低下している。また、ブランド米による産地間競争が激化しており、需要に対応した売れる県産米の生産拡大がさらに必要となっている。

県オリジナル水稲品種「<sup>ぎんが</sup>銀河のしずく」、「<sup>こんじき</sup>金色の風(旧系統名：岩手118号)」が育成され、ブランド化による県産米全体の評価向上が期待される中、新品種を速やかに普及定着が求められている。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 新品種における良食味・高品質米栽培技術の確立

##### ア 安定栽培適地の把握と作付誘導【対象：展示圃農家】

「銀河のしずく」は本年度から一般栽培がスタートし、作付目標面積100haに対して、それを大幅に超える作付要望があった。栽培適地にはモデル展示圃30カ所、栽培適地外には栽培適地実証圃18カ所を設置し、生育調査を通じて地域適応性や品種の生育特性把握に努めた。

##### イ 良食味・高品質米の安定栽培技術指導【対象：研究会】

平成28年度5月に栽培適地である4JA管内に4つの地域栽培研究会が設立され、県全体の栽培指導や情報共有のために同5月、岩手県「銀河のしずく」栽培研究会が設立された（事務局として県域普及グループ参画）。

県研究会活動として、平成27年度に作成した『「銀河のしずく」高品質・良食味米栽培マニュアル』に基づき、栽培研究会を計4回（6・7・9・1月）開催し、栽培指導を行った。

##### ウ 研究会活動を通じた安定栽培技術向上【対象：研究会】

マニュアルに示した品質目標（暫定値）（整粒歩合80%以上、玄米タンパク質含有率7.0%以下（玄米水分0%換算））を達成するために、研究会活動を通して活動した。

#### (2) 新品種のPR等による知名度の向上

ア 県産米戦略室との連携のもと、達増知事による「銀河のしずく」の田植（5/18）、稲刈り（9/21）に参加し、生産者及び消費者へのPR活動を行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 新品種における良食味・高品質米栽培技術の確立

##### ア モデル展示圃および栽培適地実証圃設置

15市町48カ所に設置し、各地域研究会事務局（JA職員）らが調査を実施し

た。その調査結果を栽培研究会で共有し、タイムリーな栽培指導が実施された。

#### イ 栽培マニュアルの改訂

農業研究センター研究成果（水稻品種「銀河のしずく」のいもち病圃場抵抗性を利用した穂いもち防除の省略）をもとに改訂した。モデル展示圃の調査結果も加えて「平成29年栽培のポイント」を作成した。

#### ウ 品質目標の達成

マニュアルに示した品質目標をもとに「農産物検査結果が一等米であること、かつ玄米タンパク質含有率7.0%以下（玄米水分0%換算）であること」という出荷基準が設定され、平成28年産米においては99%がクリアした。

#### エ 食味評価「特A」取得

（一社）日本穀物検定協会が実施する米の食味ランキングに出品し、2年連続で食味評価「特A」（参考品種）を獲得した。

#### オ H28作付面積およびH29作付予定面積

H28作付面積は、目標100haに対して約1.5倍の146haであり、達成できた。H29作付予定面積は、目標値を1年早めて1000haに普及面積を拡大することになった。



第1回岩手県「銀河のしずく」栽培研究会

（H28.6.1 農研センター会議室）



第3回岩手県「銀河のしずく」栽培研究会

（H28.9.9 農研センター圃場）

#### （2）新品種のPR等による知名度の向上

ア 知事によるPR活動、各種コンテストでの入賞（2016米のヒット甲子園大賞（主催：日経トレンドィ））などにより、生産者および消費者に広く認知された。

イ 品質目標が達成されたことにより、初年度の流通量を確保できたことが知名度の向上につながった。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(岩手県銀河のしずく栽培研究会会長 (モデル展示圃担当農家) A氏)

平成27年から栽培しています。育苗期間中、低温の時期でも苗の伸びが良く、寒い岩手にあった品種だと感じています。

「特A」を獲得できる「銀河のしずく」を栽培できる喜びを大切にしながら、より良い「銀河のしずく」を作っていきたいです。

#### 5. 普及指導員のコメント

(中央農業改良普及センター県域普及グループ・上席農業普及員・中西商量)

今年度から県域担当として、普及活動に携わっている。特A取得できる食味の実力を持つ期待の新品種であり、今年度はまず良食味生産に主眼を置いて活動した。この品種のストロングポイントは、良食味であること以外にも多収であること、病害に強いことなど、いくつもある。栽培面積を増やしていく上で、これらの長所を生かしながら推進していきたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

平成28年度は「銀河のしずく」が本格栽培され、高評価を得た。平成29年度には岩手県のフラッグシップ米として「金色の風」が本格栽培される。「銀河のしずく」の流れに乗って、研究会活動を通じて、ブランド化による県産米全体の評価向上のために普及活動を進めていく。